

「株式会社 姫路シティ FM21」

第 56 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成26年6月28日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ4階 セミナー室C

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 6名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

岸田 直美 大井 義雄 大谷 昭仁 衣笠 愛之
増田 善孝 水守 祐一

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

岩田 稔恵 岩成 孝 難波 正司 宮本 節子
柳谷 郁子

5) 会社側出席者氏名

寺尾 雅晴 (専務取締役 放送局長)
黒田 俊雄 (常務取締役 営業部長)
小幡 博 (営業企画課 課長)

4. 議題

1) 事務局より挨拶

- ・ 専務よりあいさつ

2) 資料説明

- ・ 2014年3月～2014年6月の取り組みについて
- ・ 2014年7月以降の取り組みについて

3) 試聴

- ・ 5月27日(火) 街角トピックス トライやる・ウイーク出演

4) 意見交換

岸田委員 兵庫県立大学の番組内容について知りたい。

- A委員 第1土曜日 午後10時～午後10時30分に「県大アワー」というタイトルで放送している。サークルの代表として、パーソナリティと編集を行っている。県立大学の先生や活動している学生にインタビューを行い、学校の魅力を発信していきたいと考えている。
- 委員長 制作にあたって難しいところはあるか？
- A委員 制作に使用している機材が古く、途中で停止したりすることがあるのが問題である。質問だが、「トライやる・ウィーク」はどういうものか？
- 局長 兵庫県の独自の制度。中学生に職業体験をさせることで、実際の社会の仕組みを知ってもらおうという試み。中学2年生全員がトライやるウィークに参加することになっている。学校が受け入れ先を探し、生徒を派遣する。地域に企業が多くあれば、受け入れ先も多い。学校によってFMゲンキが対象になっているところとそうでないところがある。今回は5校から打診があった。ラジオはテレビに比べると訴える力も小さく、ラジオに触れる機会も少ないことから、受け入れができる範囲で対応しようということで2週間の受け入れとなった。学校によっては、第5希望まで企業を書かせて、派遣先を決めているようである。月曜日から金曜日までの5日間、本人が希望した場所にいて、ごく一部でも体験することで、将来の職業選択に役立ててもらおうというものである。
- A委員 他県出身だが、職業体験として短期間のものはあった。
- 局長 兵庫県は期間が長い。そのため、受け入れ側の負担も大きい。しかし、自分たちの仕事を知ってもらいたいということで、受け入れ企業も多くなる。
- 課長 中学生がきて、一番最初に喜ぶのは、「効果音」の放送体験である。テレビやラジオで使われている効果音を実際に自分の操作で流すということに興味があるようだ。
- 委員長 今年度はインターンシップもあり、2名を受入れるようだが。私もかつて、インターンシップの受け入れ先を探して企業をまわったことがあった。マンネリ化するとアルバイト扱いされてしまい、企業の全体像を知ることができずに問題になったことがあった。
- 局長 今年度初めての取り組みであり、頑張りたい。

B委員 防災に関して関心を持っている。放送は重要なものであるので、充実させていっていただきたい。

委員長 3年間で機器を更新するということの予算計画などはあるのか。公的資金の導入や寄付などはないのか？

局長 コミュニティ放送は規模の小さなところが多く、経営が逼迫しているところも多い。それらが機材更新等を行うために、行政が補助金等で関与をしているところもあるようだが、多くの場合は委託業務によって運営されているため、会社としての留保分に対応する。行政としては特定の株式会社に対して税金を直接投入することは難しい。

委員長 災害時は公的な役割を果たさないといけない。

局長 災害時は、消防局に設置した装置からFMゲンキの許可によって放送を行うこともできる。Jアラートについては、国から直接出た情報を放送することができる。Jアラートについては、CM中でも番組中でも割込み放送を行う。例えば、震度4以上の地震が発生した場合は、消防局からの放送でつなぎながら、社員が出勤した時点でイーグレひめじからの放送に切り替える。

B委員 緊急の場合は災害対策本部から放送できるのは良い事だが、局のスタッフが状況などを流していただければ、役所の淡々としたアナウンスよりも実感がでるのではないか。

局長 行政もどのレベルの情報が正しいとするか判断するのが大変難しい。公共の電波をつかって流す場合は、信ぴょう性に少しでもかけるものは流せない。したがって、災害対策本部などから公表されるものが中心となる。FMゲンキとしては、通常はリクエスト等で使用しているメールアドレス等に情報が寄せられることもあるが、それを姫路市と共有できないか？という検討を行っている。しかし、災害時はパニックのような状況になるので、どのように対応するかということは大変難しい。

委員長 どんどん情報が入ってくるなかで、判断をするのは難しい。

局長 私も電話対応を行ったことがあるが、電話が鳴りやむときが無かった。とりあえず話を聞くしかない。一元的に情報を管理するということは仕組みを構築しても機能するかどうかは難しい可能性がある。災害発生直後は情報が予定通り流れてこない可能性もある。そうなれば、こちらから取りに行かないといけなくなる。

委員長 激甚災害の時に取材を行う場合は、消防局や行政の窓口になるのか？災害現場へということは難しいのか？

局長 その体制は組めない。局の中で報道部門がなく報道スタッフがいない。

課長 タイムテーブルの話題がでたので、見方を説明したい。白い所、ピンク色の所は他社制作のため、インターネット放送ができない。黄色は生放送、さらに濃い所がスポンサー付番組。うす黄色は録音放送。緑色の部分はボランティアスタッフが制作したものである。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成26年7月3日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ (<http://fmgenki.jp>)

自社放送内「FMゲンキからのお知らせ（2014年7月6日午後4時45分）」

以上